

広報誌で紹介した写真またはデータを希望者に提供します。

お申し込み 情報課広報広聴係

TEL 23-3069



## 元気な町を目指して とうべつふれあい広場

(9月9日)

町内の人に福祉や介護、ボランティア活動などにもっと興味を持ってもらおうと町社会福祉協議会が主催して「とうべつふれあい広場」を開催しました。会場となったゆとろでは、口のきけない先生と島の子どものたちの学校生活を描いた映画「機関車先生」を上映。苦勞を乗り越えながら信頼関係を築いていく先生と生徒の姿にたくさんの方が感動しました。

また、NPO法人ゆうゆう24が主催して子ども福祉フォーラムを開催し、小学生から大人までが班に分かれてボランティア活動や社会福祉をテーマに意見を出し合いました。

このほかにも会場の外では盲導犬の体験や補そう具を着けてのゴルフゲーム、木工教室などが来場者を楽しませました。



## 盛り上がった ストリート・座・Manzai

(9月24日)



町観光協会がイベントを通して町内に賑わいを創出しようと札幌吉本に所属する若手芸人やテレビで活躍している「だいたひかる」さんと呼んで特産品フェア&ストリート・座・Manzaiを開催。会場では、だいたひかるの独特のリズムによるトークが繰り広げられ、活気あふれるステージになり、会場から人があふれるほどの盛況でした。

このほかにも、近隣市町村の特産品フェアも行われ、当別のフランクフルト、石狩市のステーキが人気を集めました。また、子ども縁日、にんじんの詰め放題に大勢の人が集まったほか、ポイントカード会の抽選会も開催され、賑わいを見せました。



## 被害を最小限に 防災セミナー開催

(9月6日・26日)



災害が起きたときにすばやく関係機関、地域住民と連携を取れるようにと北海道教育大学札幌校佐々木貴子助教授を招き、防災セミナーを開催しました。

講演では、阪神淡路大震災や新潟中越地震などの事例をもとに、いざという時にとっさに行動するためには、日頃から防災意識を持つことが必要だと説明を受けました。

また、9月26日(火)には、町民向けセミナーとして、石狩市役所総務課長吉田宏和氏を招き、石狩市の自主防災活動を具体例を交えながら説明いただきました。

## 青空の下で自然に感謝 フィールドイズ

(9月23日)



ニュージーランドの国民的農業祭を模範に、環境や農業にふれあってもらおうと創地農業21・当別町農村都市交流研究会が主催してフィールドイズインジャパン2006を金沢のファームエイジを会場に開催しました。

青空の下、ニュージーランド独自のゲームの柵はり大会では、一般の部とプロの部に分かれてまっすぐに柵が立てられているかななどの技術を競いました。

会場には、地元農産物を使ったカレーが登場し、地産地消の取り組みをPRしていたほか、動物とのふれあいコーナーも設置されていました。

## ふれあいの場「によきによき」を開設

(9月24日)



NPO法人ゆうゆう24が旧北季節保育所を利用して当別町ノーマライゼーションセンター「によきによき」を開設しました。

この施設には、児童サービスセンター「アマリリス」、障がい者ヘルパーステーション「あじさい」、当別町ファミリーサポートセンターが入り、地域のいろいろな子どもたちが同じ時間を共有する場として開設されました。

開所式では、NPO法人ゆうゆう24所長の原裕裕さんから「どんな方でも利用していただける場にしたい」と挨拶がありました。

## 町民と学生の交流 24時間チャリティーイベント

(8月26・27日)



北海道医療大学の学生が中心となり、もっとまちの人に福祉のことを知ってもらおうと駅前広場、れんが倉庫、まちの駅アウルの3か所を会場に当別町24時間チャリティーイベントを開催しました。

毎年行われている「100人の声」では、「あなたの信頼する人は」をテーマにメッセージをリレーでつなぎ、会場で放映しました。

2日間で子どもからお年寄りまでたくさんの町民が集い、「だるまさんが転んだ」などのイベントを通して学生と交流を楽しみました。